

平成 27 年 4 月

学長 殿
関連部局長 殿
学校長 殿
関係各位 殿

東北大学高度教養教育・学生支援機構長
花輪 公雄
〔公印省略〕

第 22 回東北大学高等教育フォーラムについて（通知）

拝啓

春暖の候、貴職におかれましてはますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素から、本学の研究教育活動に対しては格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

このたび、本機構主催の**第 22 回東北大学高等教育フォーラム**を企画いたしましたので、お知らせいたします。

今回は「新時代の大学教育を考える」シリーズの第 12 回目となります。別紙でご案内の通り、「大学入試改革にどう向き合うか——中教審高大接続答申を受けて——」というタイトルで**5 月 15 日（金）**の開催を予定いたしております。ご多用のところまことに恐縮ではございますが、資料準備のために、ウェブ受付を通じて**5 月 8 日（金）**までに参加予定の方のお名前をお知らせいただければ幸いです。

なお、同封いたしました別紙のとおり、電子メール、および、FAX での参加申込受付も致します。

末筆ではございますが、貴職のますますのご発展を祈念いたしております。

敬具

※ なお、本フォーラムの企画担当者、連絡担当者は、下記の通りになります。どうぞよろしくお願いいたします。

企画担当者	石井光夫	東北大学高度教養教育・学生支援機構教授
（事務局	倉元直樹	東北大学高度教養教育・学生支援機構准教授）
事務担当者	鎌田裕子	東北大学高度教養教育・学生支援機構事務室

Tel. 022-795-7551, Fax. 022-795-4815

メールアドレス（共通） forum22@ihe.tohoku.ac.jp

大学入試改革にどう向き合うか —— 中教審高大接続答申を受けて ——

昨年12月「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」と題した中央教育審議会の答申が出され、大学入試は抜本的改革を迫られることになった。わが国の学制が整って以来、幾度となく入試改革は熱い議論の俎上に上り、様々な試みが繰り返されてきた。特に、この20年、大学入試は「多様化・多元化」へ向けた変革が進められてきた。しかし、今回の答申は従来の議論を大きく飛び越え、高等学校、大学そして大学入試を含む「一体改革」の中で、大学入試の在り方を根底から変える方針を示した。高校、大学の現場からは唐突と感じられる今回の改革の狙いは何なのか。改めて議論の整理を試みたい。

一方、具体的な施策の実現可能性について、当初からこれほど実現が危ぶまれている答申もかつてなかった。センター試験の廃止と2種類の新テスト導入、筆記試験だけによらない多様な方法を取り入れた大学個別試験の改革、等々、大学入試が今ある形と全く異なる姿となったとき、実際には何が起こるのだろうか。当事者である大学と高等学校は答申の改革提言をどう受け止めているのか。それぞれの立場から、この入試改革の行方について議論を重ねていく必要がある。

本フォーラムでは、基調講演者に中央教育審議会高大接続部会臨時委員として審議の経緯を目の当たりにしてきた京都大学土井真一教授と、国立大学協会入試委員会専門委員として国立大学の状況を熟知し、中央教育審議会高等学校教育部会・大学教育部会臨時委員も務められてきた大阪大学川島太津夫教授をお招きする。土井先生には中教審における議論の経過を踏まえてご自身の見解を、川島先生には国大協の議論の紹介を中心としたお話をお願いした。また、現場からの報告として、中教審でも改革事例として紹介された東北大学のAO入試を中心にした報告と高等学校の立場から大学入試改革への見方を紹介する報告を予定している。以上の講演と報告を受け、フロアからの意見を交えて討論を行う。

高等学校および大学の先生方、関係する方々の多くの参加と忌憚なき活発な議論を期待したい。

日時 平成27年5月15日（金） 13:00～17:00（受付開始 12:30）

会場 東北大学百周年記念会館 川内萩ホール

フォーラム内容

I 開会 開会の辞 里見 進 （さとみ すずむ） 東北大学総長

II 基調講演1 中教審高大接続答申を読む——大学入試改革を着実に実現するために——
京都大学大学院法学研究科教授（元中央教育審議会高大接続特別部会臨時委員）
土井 真一 （どい まさかず） 氏

基調講演2 国立大学の入試改革の歴史と展望
大阪大学未来戦略機構教授
（国立大学協会入試委員会専門委員、中央教育審議会大学教育部会臨時委員）
川島 太津夫（かわしま たつお） 氏

III 現状報告1 高校現場から見た大学入試改革
福島県立福島高等学校教諭 浜田 伸一 （はまだ しんいち） 氏

現状報告2 大学入試改革モデルとしての「東北大学型AO入試」
東北大学高度教養教育・学生支援機構准教授 倉元 直樹 （くらもと なおき） 氏

IV 討議

V 閉会 閉会の辞 花輪 公雄 （はなわ きみお） 東北大学理事



TOHOKU
UNIVERSITY

第22回東北大学高等教育フォーラム／新時代の大学教育を考える[12]

大学入試改革に どう向き合うか

—中教審高大接続答申を受けて—

平成27年 5月 15日(金) 13:00~17:00(受付開始12:30)

東北大学百周年記念会館 川内萩ホール

プログラム

- I 開会 開会の辞 里見 進(さとみすすむ)東北大学総長
- II 基調講演1 『中教審高大接続答申を読む—大学入試改革を着実に実現するために—』
京都大学大学院法学研究科 教授 (元中央教育審議会 高大接続特別部会臨時委員)
土井 真一(どいまさかず)氏
基調講演2 『国立大学の入試改革の歴史と展望』
大阪大学未来戦略機構 教授 (国立大学協会 入試委員会専門委員, 中央教育審議会 大学教育部会臨時委員)
川嶋 太津夫(かわしま たつお)氏
- III 現状報告1 『高校現場から見た大学入試改革』
福島県立福島高等学校 教諭 浜田 伸一(はまだしんいち)氏
現状報告2 『大学入試改革モデルとしての「東北大学型 AO 入試」』
東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授 倉元 直樹(くらもとなおき)氏
- IV 討議
- V 閉会 閉会の辞 花輪 公雄(はなわ きみお)東北大学理事／東北大学高度教養教育・学生支援機構長

Web 申込み方法

http://www.ihe.tohoku.ac.jp/?page_id=748 にアクセスいただき、
お知らせの「参加申し込みページへ」からお申込みください。

お問い合わせ先

東北大学 高度教養教育・学生支援機構事務室
TEL:022-795-7551 E-mail:forum22@ihe.tohoku.ac.jp

主 催

東北大学 高度教養教育・学生支援機構
教育関係共同利用拠点提供プログラム：高等教育論 L-01



第 22 回 東北大学高等教育フォーラム参加申込の手引き

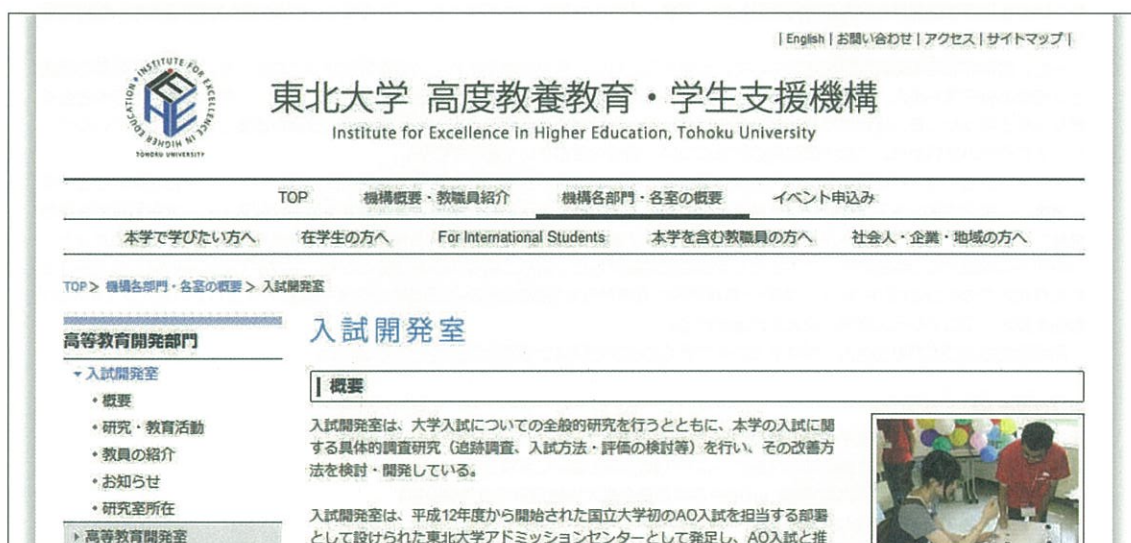
この度は、「第 22 回 東北大学高等教育フォーラム」にお越しいただきますことを心から感謝いたします。

1. お願い

- 本フォーラムへの参加は、ウェブページの受付サイト、電子メール、FAX の 3 通りの方法で申込の受付を行います。
- 事務処理の都合上、なるべくウェブページの受付サイトを通じてお申し込みください。
- 申込手順は以下の通りです。

2. ウェブページ受付サイトからの参加申込手順

- http://www.ihe.tohoku.ac.jp/?page_id=748 を開きます。



The screenshot shows the website for the Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University. The page is titled '入試開発室' (Admission Development Room) under the '入試開発室' (Admission Development Room) section. The main content area includes a '概要' (Overview) section with the following text: '入試開発室は、大学入試についての全般的研究を行うとともに、本学の入試に関する具体的調査研究（進路調査、入試方法・評価の検討等）を行い、その改善方法を検討・開発している。' (The Admission Development Room conducts general research on university admissions and specific research on Tohoku University's admissions, including career surveys, admission methods, and evaluation, to discuss and develop improvement methods.) Below this, it states: '入試開発室は、平成12年度から開始された国立大学初のAO入試を担当する部署として設けられた東北大学アドミッションセンターとして発足し、AO入試と推' (The Admission Development Room was established as the Admissions Center of Tohoku University in Heisei 12, as the first department to handle AO admissions at a national university, and is now responsible for AO admissions and recommendation).

- 「お知らせ」の「第 22 回東北大学高等教育フォーラム（新時代の大学教育を考える [12]）大学入試改革に どう向き合うか—中教審高大接続答申を受けて—」の「[参加申し込みページへ](#)」をクリックします。
- 参加申し込みのページにつながりますので、必要事項を記入して申込を完了してください。

[戻る](#)

[詳細・申込み](#) Event Detail & Registration

**第22回東北大学高等教育フォーラム（新時代の大学教育を考える [12]） 大学入試改革に どう向き合うか
 —中教審高大接続答申を受けて—**

教育関係共同利用拠点提供プログラム 高等教育論 L-01

日時：平成27年5月15日（金）13:00～17:00（受付開始12:30）

場所：東北大学百周年記念会館 川内萩ホール

昨年12月「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」と題した中央教育審議会の答申が出され、大学入試は抜本的改革を迫られることになった。わが国の学制が整って以来、幾度となく入試改革は熱い議論の俎上になり、様々な試みが繰り返されてきた。特に、この20年、大学入試は「多様化・多元化」へ向けた変革が進められてきた。しかし、今回の答申は従来の議論を大きく飛び越え、高等学校、大学そして大学入試を含む「一体改革」の中で、大学入試の在り方を根底から変える方針を示した。高校、大学の現場からは唐突と感じられる今回の改革の狙いは何なのか。改めて議論の整理を試みたい。

一方、具体的な施策の実現可能性について、当初からこれほど実現が危ぶまれている答申もかつてなかった。センター試験の廃止と2種類の新テスト導入、筆記試験だけによらない多様な方法を取り入れた大学個別試験の改革、等々、大学入試が今ある形と全く異なる姿となったとき、実際には何が起ころのだろうか。当事者である大学と高等学校は答申の改革提言をどう受け止めているのか。それぞれの立場から、この入試改革の行方について議論を重ねていく必要がある。

本フォーラムでは、基調講演者に中央教育審議会高大接続部会臨時委員として審議の経緯を目の当たりにしてきた京都市立土井真一教授と、国立大学協会入試委員会専門委員として国立大学の状況を熟知し、中央教育審議会高等学校教育部会・大学教育部会臨時委員も務められてきた大阪大学川島太津夫教授をお招きする。土井先生には中教審における議論の経過を踏まえてご自身の見解を、川島先生には国大協の議論の紹介を中心としたお話をお願いした。また、現場からの報告として、中教審でも改革事例として紹介された東北大学のAO入試を中心とした報告と高等学校の立場から大学入試改革への見方を紹介する報告を予定している。以上の講演と報告を受け、フロアからの意見を交えて討論を行う。

高等学校および大学の先生方、関係する方々の多くの参加と忌憚なき活発な議論を期待したい。

【プログラム】

- I 開会 開会の辞 東北大学総長 里見 進（さとみすすむ）
- II 基調講演1「中教審高大接続答申を読む—大学入試改革を着実に実現するために—」
 京都大学大学院法学研究科 教授（元中央教育審議会高大接続特別部会臨時委員）
 土井 真一（どいまさかず）氏
- 基調講演2「国立大学の入試改革の歴史と展望」

3. メール、または、FAXによる参加申込

- 同封の様式をご利用ください。

【問合せ先】

東北大学 高度教養教育・学生支援機構事務室

Tel. 022-795-7551

Fax. 022-795-7647

forum22@ihe.tohoku.ac.jp

第 22 回 東北大学高等教育フォーラム 参加申込書（メール，FAX 用）

宛先：東北大学高度教養教育・学生支援機構高等教育開発部門入試開発室

ホームページ：http://www.ihe.tohoku.ac.jp/?page_id=748

メールアドレス：forum22@ihe.tohoku.ac.jp

FAX 番号：022-795-4815，電話番号：022-795-7551

5 月 15 日（金）開催（東北大学百周年記念会館・川内萩ホール）の「第 22 回 東北大学高等教育フォーラム（新時代の大学教育を考える[12]）大学入試改革にどう向き合うか——中教審高大接続答申を受けて——」に参加します。

ご所属

連絡先メールアドレス，または，FAX 番号

ご芳名

ご芳名

ご芳名

- 5 月 8 日（金）までに，なるべくホームページの受付サイトからお申込ください。
- 電子メール，または，FAX にてのお申込も可能です。
- 電子メールにてお申込の場合，件名を「第 22 回東北大学高等教育フォーラム参加申込」としてください。
- お問い合わせは上記までお願いいたします。



東北大学高等教育開発推進センター —出版物のご案内—

※東北大学出版会ホームページ及び全国の書店で取り扱っております。



高等教育ライブラリ 8

「書く力」を伸ばす—高大接続における取組みと課題—

東北大学高等教育開発推進センター編 2014年3月刊行
定価：本体価格 2,000円＋税 A5判 250頁 ISBN 978-4-86163-243-3 C3037

「書く力」とは何だろうか。それは高校教育、大学教育の中でどのように育てられているのか。育てられるべきなのか。高校の「国語」の時間では相当な時間数を「書くこと」に当てることになっているが、実現は難しい。むしろ、大学入試の小論文指導の中で「書く力」は鍛えられている。「読むこと」は「書くこと」の前提条件なのか。それとも両者はトレード・オフの関係なのか。大学入試で「書く力」はどこまで伸ばせるのか。変わりゆく大学教育で「書く力」の育成はどこまで可能なのか。「対話力」をキーワードに現実的に可能な解決策を探る。



高等教育ライブラリ 2

『高大接続関係のパラダイム転換と再構築』

東北大学高等教育開発推進センター編 2011年3月刊行
定価 1,785円（税込） A5判 222頁 ISBN 978-4-86163-164-1 C3037

かつて高校と大学の教育は大学入試の一点で結ばれていたが、大学が大衆化した現在、高大接続は時間軸に沿って広がりを持つようになった。大学入試もかつての単なる選抜装置としての機能から、日本の教育を支える要の役割を担っている。高大接続関係が大きく転換しつつある現在、新たなパラダイムが胎動しつつある。一方、現場では限られた条件で最善を模索しなければならない。高大接続関係の再構築に向けて、今、教育に携わる当事者ができることは何か。本書は多様な実践事例とその検証を背景に新たな高大接続モデルを提示する試みである。



高等教育ライブラリ 4

『高等学校学習指導要領 vs. 大学入試』

東北大学高等教育開発推進センター編 2012年3月刊行
定価 1,785円（税込） A5判 224頁 ISBN 978-4-86163-188-7 C3037

高校教育を実質的に規定している要因とは何か。大学の入学基準はどのように担保されているのか。そして、学習指導要領、大学入試センター試験、個別試験の相互関係とは。大学全入時代と言われる現在、大学入試が激戦だった頃の常識はもはや通じない。学力試験は、教育を支える「要」なのか、それとも単なる「形式」に過ぎないのか。大学入試制度は慎重に改善すべきなのか、あるいは一気に変えるべきなのか。そして、大学と高校の“役割分担”は…。立場の異なる執筆者たちによる主張の交差から、日本の教育の近未来像を描く果敢な試み。



高等教育ライブラリ 6

『大学入試と高校現場—進学指導の教育的意義—』

東北大学高等教育開発推進センター編 2013年3月刊行
定価 2,100円（税込） A5判 240頁 ISBN 978-4-86163-222-8 C3037

大学入学者選抜制度改革が結果的に「改悪」と受け止められてしまうのは何故か。謎を解くカギを高校教育の現場から探す。現在の高校は多様な環境に置かれている。その中で行われている進学指導の真の目的とは何か。大学入試はどのような機能を果たしているのか。大学・高校双方の視点から埋め込まれた文脈の掘り起こしを試みた。その過程で見えてきた「受験は団体戦」ということばとは？人間形成への影響も視野に入れ、検討する。2012年5月18日開催の東北大学高等教育フォーラム「進路指導と受験生心理」をもとにしたレポートと考察。

お問合せ先

東北大学出版会 Tohoku University Press, Sendai

〒980-8577 仙台市青葉区片平2丁目1-1 東北大学構内
TEL / 022-214-2777 FAX / 022-214-2778 E-mail / info@tups.jp

ホームページ

<http://www.tups.jp>